

## 試験実施方法（果樹）

### 1 試験条件

#### 1) 圃場条件

特殊な土壌条件の場所は避け、風当たりが弱く、排水がよい場所を選ぶ。

#### 2) 供試樹・供試品種

- ・新植する場合、台木を含め来歴が明らかで、生育の揃った苗木を供試する。
- ・既存樹を用いる場合、樹齢や樹体（樹の大きさ、樹勢など）の揃ったものを供試する。

#### 3) 試験規模

- ・品種試験では、最低3樹、できれば5樹以上反復することが望ましい。
- ・栽培試験では、3樹または3区以上反復する。

### 2 栽培法

#### 1) 供試樹の定植

・所定の土壌改良を行い、定法により植え付ける。定植時の樹齢を記録する。

#### 2) 栽植様式・栽植密度

・標準の栽植様式を採るとともに、樹の生長を考慮して無理のない栽植距離（栽植密度）とする。

#### 3) 肥料・土壌改良資材の施用

・標準または慣行の施用法・施用量とする。

#### 4) 病虫害防除

・道の防除基準に従って防除を実施する。

#### 5) その他

- ・ハウス等の施設を利用する場合には、施設と樹種に応じた慣行管理とする。
- ・栽培管理の中で生育調節剤などを利用する場合、道の使用基準を順守する。
- ・その他標準または慣行の管理法による。

### 3 試験経過の記録

#### 1) 気象経過

- ・アメダスデータ等を利用して平年との比較を行うとともに特記事項を記録する。
- ・施設を利用する場合、施設内の気温を経時的に記録する。

#### 2) 生育経過

・必要なデータを取りながら、生育概況および病虫害・各種障害などの特記事項を記録する。

## 成績取りまとめ様式

- 1 試験目的
  - ・試験の目的がよくわかるよう、的確かつ簡潔に述べる。
- 2 試験方法
  - 1)実施場所
    - ・市町村名、機関名、現地では農家名など
  - 2)ほ場条件
    - ・土壌の種類、土質、地形、排水の良否、必要に応じ前歴など
  - 3)栽培条件（露地・普通栽培の場合は記述しなくてもよい）
    - ・施設栽培の場合は加温、無加温、雨よけの別などを記述する
    - ・コンテナ栽培、高畝栽培など特殊な条件の場合も記述する
  - 4)供試品種および栽植密度
    - ・穂品種と台木品種、栽植様式、栽植距離、樹齢（または接ぎ木年、定植年）
    - ・品種試験では対照品種を明記する
  - 5)処理区別および試験規模
    - ・処理内容、処理方法、1区面積（または樹数）、反復数
  - 6)栽培管理
    - ・整枝法
    - ・土壌管理法、施肥法、施肥量
    - ・防除回数、必要に応じ使用薬剤・防除法など
    - ・樹体管理、灌水、生育調節剤などで特記事項があれば記述する。
- 3 気象経過および生育経過（簡単に触れる場合は、試験結果の項で記述してもよい）
  - ・気温、日照時間、降水量など必要な項目を表または図で示す。
  - ・生育経過の概要および病虫害・各種障害などの特記事項を記述。
- 4 試験結果
  - ・データをまじえ試験の結果を記述する。
- 5 考察
  - ・得られた結果の理由づけ、結果からいえることなどを述べる。簡単な試験の場合は、試験結果の項で個々の結果に関連づけて記述してもよい。